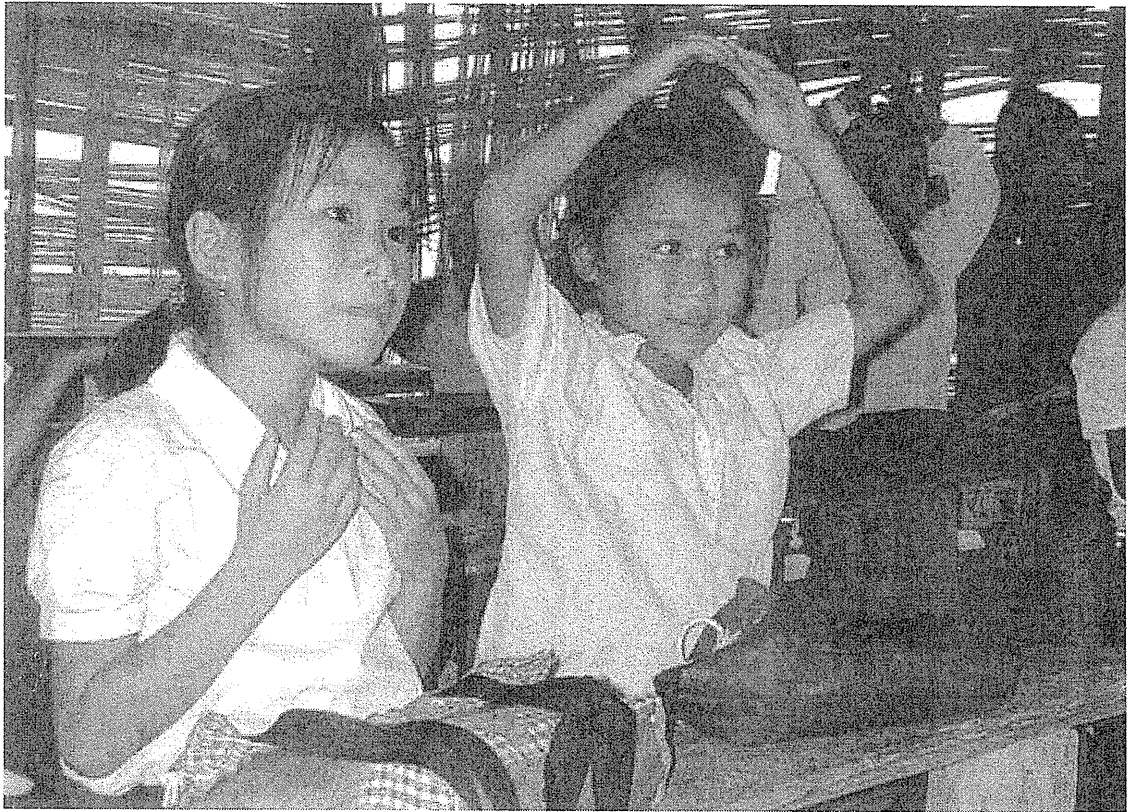




みなさま、お元気ですか。

ラオスは、昨年毎月のように爆弾事件が発生し、日本国外務省からラオス国全域が危険度 1 の指定を受けていました。それが、やっと 4 月 20 日付けで解除されました。実際に訪問していると、危険は何も感じないのですが、それが逆に無防備にさせてしまうと思いました。

さて、3 月 30 日から、活動視察に行きました。まだ、危険地域指定となっていたので、ツアーとしませんでした。行きたいと言ってくくださった中村さんと、来年度ヴィエンチャン滞在となる“じゃっど”スタッフの藤島美由紀さんに一緒に行って頂きました。バンコクからは JICA（国際協力事業団）専門家の永井さん、友野さんが合流され、ヴィエンチャンからはラオス側総務であるソムチットさんも一緒に、西北部のサヤブリ県まで行ってきました。中村さんには、5 月 26 日の報告会で報告をしていただきました。報告の内容等は藤島さんからのレポートと一緒に、2～3 ページにあります。読んでください。

4 月 30 日から 5 月 3 日には、JICA の小規模開発パートナー事業の交渉他で、ヴィエンチャン訪問をいたしました。パートナー事業に関しての相手方となる研究所長や医療技術大学、JICA ラオス事務所などの訪問のほか、ちょうどラオス訪問中であつた、川内市出身松下内閣府副大臣や小淵代議士にご挨拶する機会もありました。まだ、書類や契約が進まず、事業が始まりませんが、7 月中には動き出せればと考えております。

今年度も、あっという間に年度末を迎えてしまいました。何かと熟慮が足りないところがあるのではないのでしょうか。改善していきたいと思っております。どうぞ、皆様からご意見、ご批判をくださいますようお願いいたします。今年度のご支援ありがとうございました。(帖佐理子)

5月26日(土) じゃっど視察の報告会を開きました。

3月29日～4月5日 帖佐理子会長、中村睦子氏(鹿児島県在住)、藤島美由紀氏(愛知県在住)がラオス視察しました。報告会は、先日はがきでもご案内しましたように、若松記念病院内の会議室にて開催しました。土曜日の午後ということもあり、川内市内の会員は仕事の都合や会合など重なり参加者は19名でした。また、ラオススタッフのコンサップ氏が東京に出張中の為、当日急きょ報告会に駆けつけて下さいました。帖佐徹氏も同行してくださり通訳をお願いしました。コンサップ氏は、川内はもちろんはじめてです。

「ラオスと川内、こんなに遠く離れたところで、川内(日本)の皆さんが、ラオスの子供達の為に援助、視察、そして報告会とがんばっておられ、感謝とともに、ラオス人の私たちががんばっていかなくては。」と感想を述べられていました。

報告会は、最初に、写真を見ながら中村睦子氏が今回視察のサイニャブリ教育委員会、小学校訪問、ビエンチャン教育局、セミナーの様子など報告しました。報告文は原文のまま載せてありますのでお読み下さい。

次に、帖佐会長が、現地報告しました。

藤島美由紀氏の報告文は原文のまま載せてありますのでお読みください。

中村睦子氏がラオス視察時の写真をご寄付下さり、じゃっど事務所においてありますので、いつでもご覧下さい。ここにあらためて視察参加の皆様にお礼申し上げます。また、お忙しい中、報告会に参加いただいた皆様に感謝いたします。

以下、報告会の参加者です。(敬称略)



報告会の様子

中村睦子（有明町在住）、コンサップ（ラオス在住）、帖佐徹（東京都在住）、今村賢治（隼人町在住）、梅木多津子、西谷ひとみ、神田安代、児玉充敏、児玉タツ子、佐藤章子、神崎侯至、岩月洋孝、庵地紘一、牧田弘子、山下千幸、常国書、帖佐茉莉花、帖佐理子、宮脇美智子（川内市在住）

報告者 中村睦子会員

神の棲む、国ラオス

はじめに

本格的な、グローバル化時代を迎えた今日、地域レベルでの異文化交流や、国際協力がますます重要になってきております。

そのなかで、JADDOはNGOのなかでも独自の存在感をもっておりボランティア精神で、地域の人々と、心をつなにし連携しながら途上国の自立を目指す活動はすばらしいものとおもいます。今回私は、3月29日～4月5日までラオスを、訪れる機会に恵まれましたので、報告します。

『面しろうて、やがて哀しき、鶉船かな』

という芭蕉の句がありますが、私の50年間は、楽しかったり、苦しかったり、悩んだりでも看護職を、天職と思い30年頑張ってきました。所が体調を崩し、無気力状態の時、帖佐先生の講演を拝聴でき、共感し講演後すぐ、「JADDOの会員にしてください、今度は、いつラオスにいかれますか」、と数秒間の出来事でした。

私達の、子供の頃も裸足の時があり、シラミ、蟻虫、と騒がれた時があり懐かしくもあり又、看護職として興味もありました。今回ラオスを自分の目で、生の地を見、生の声を聞いてみようと思参加させていただきました。

夜遅く着いたラオスのピエンチャンは暗い路地端、少ない影、でこぼこ道が第一印象でした。信号機のない、道幅の狭い、砂埃のする道にテクテク、バイク・自転車・車が、行き交う、よく事故が起きないものだと感心しました。信号がなくても周囲の様子に絶えず気を配りながら、自分の判断で運転している姿を見てラオス国民一人ひとりが、自然とルールを遵守し自立しているからだと思いました。

ラオスの医師による学校保健セミナーの様子を、見学しました。

暗い教室・狭い教室・暑い教室、で20歳代～50歳代の先生達が、エイズ、シンナー、タバコ、免疫、手洗いの実技、など十分な資料もない中で、真剣に受けていました。

「セミナーの時間内に、決められた目的を全部教え、覚えられるようにする。」（医師）
子供達のたあに、頑張りましょう、と宣言する。（先生達）

こんな先生達の姿を見て、心温まる気持ちになりました。各学校に帰ってからどれだけ実践出来るかは疑問に感じましたが、保健教育を、定着させるためには是非必要なセミナー

だと感じました。又このセミナーが J ADDO の活動と聞いて、なお一層の驚きでした。

ピエンチャンの郊外、農村地帯の学技は、屋根と柱だけのこぼこの教室、トイレもなく山の中に排泄に行く、裸足の人が多い、この姿を目の当たりにしたとき、ショックでもあり不安を感じました。女の子が生理の時はどうするのだろうか、大便の始末はどうするのうか、と考えずにはいられませんでした。

この時ほど、セミナーの大切さを、感じたことは、ありませんでした。

ラオス古都と言われるルアババーンからサヤプリ県まで行く途中のことです。険しい山々が続き、赤土の砂埃のする道路ぎわには、打とヤシの葉だけで作られた、少数民族の集落が、数百キロと続き、農地のない地は焼作業が行われていました。

電気、ガス給水施設、などのない様子が感じられ、途上国の現状を、目の当たりにしました。ミニバスが故障し、トラックに乗り換えるという、アクシデントもありましたが、無事サヤプリ市まで着くことで安心しました。サヤプリ市は、18 時～22 時までの送電だということで、クーラーの設備がなく窓を開けたとたん、かげろうの虫がいつせいに、荒び込んできました。すぐロウソクに変えて暑さをしのぎました。開発された電気も、時には、不便を感じさせる 1 コマでした。

サヤプリ市の小学校訪問、狭く暗い教室に教科書やノートもなく、教員が、黒板に書きそれを見ているか、一人の生徒が教科書を読みそれを聞いているかの授業が行われていた。教員は、学校での内職が許され綿摘み、野菜の手入れ、自分の子供が病気だと言うことで一緒に登校されている姿が見られました。

学校には、給水施設がなく、生徒の数の割合には、トイレの数も少ない、校庭はビニール類塵が散乱している、子供達は填せて髪の毛の色が茶色の子供が多いと感じた。

体育、音楽、芸術、の授業がないと言われる、ラオス語を母国語としてるのに、少数民族の言葉しか分からない人もいるという、教育省の目標とする、「初等教育、生徒の知的、道徳的、健康的並びに芸術面及び労働面の発達を促す。、、、より高い水準の教育に継続するような知識と能力を身につけさせること。」と掲げているのでより早く実行できるよう願いたいものである。J ADDO の活動がますます期待されます。

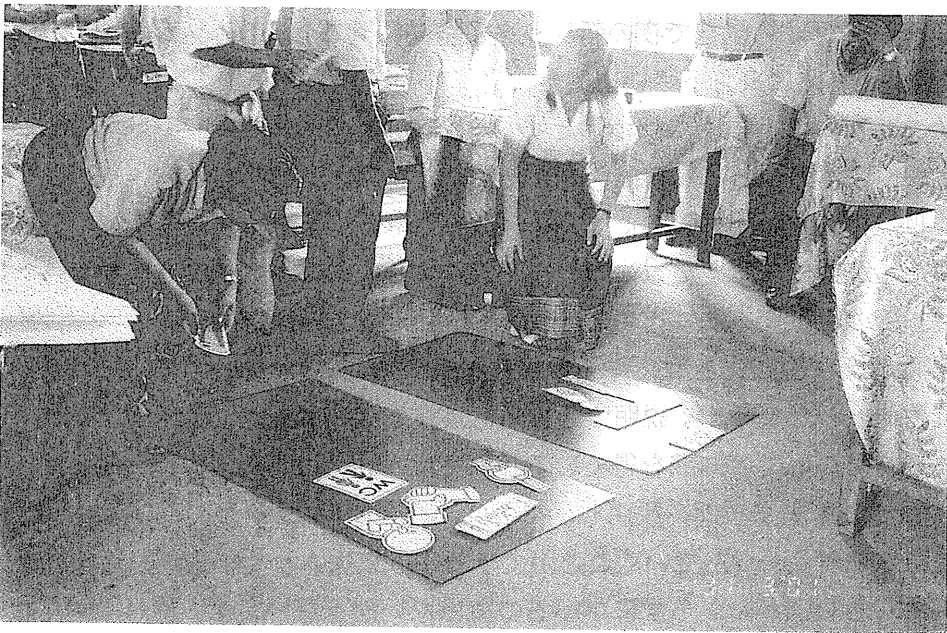
J ICA、保険局、教育省、日本大使館の方々にいろんな話を伺い J ADDO も同じレベルで大いに活動出来る国際協力事業団だと感じました。

おわりに

今回、帖佐先生、JICA の先生、藤島さん達と同行させていただき、検便の必要性、教育の必要性、J ADDO の活動の内容を直に学ぶことが出来ました。そして帖佐先生のネットワークのすばらしさを感じました。今後、私も J ADDO の会員とし協力出来る何かを摸索しながら努めて行きたいと思いました。ラオスの生の姿を見てもう 1 回好きな看護婦に就けたら幸せだろうなと思いました。最後に、お世話になりました先生方に深く感謝申し上げます。



＜セミナー風景＞
手洗い実習のデモン
ストレーション



＜セミナー風景＞
エイズの感染経路を
YES と NO の
パネル上に置いてみ
ました。



＜家＞
ヴィエンチャンで
は、見かけなくなっ
てきている貧しい
家ですが、サニャブ
リでは、一般的な家
でした。

JADDO 視察旅行の報告

藤島 美由紀会員

この度の視察旅行は、3月30日～4月4日の6日間で、帖佐先生、JADDO メンバーの中村睦子さん、私、そしてバンコクから JICA 専門家である永井先生、友野先生も同行され、5人の一行となりました。

私は JADDO の新会員でもあります。7月からラオスで開始予定の JADDO と JICA のパートナー事業として行われる活動において、スタッフとして加わる予定になっており、その意味でも今回の視察は帖佐先生とともに一緒に行動できるよい機会となりました。私は名古屋からの参加で、帖佐先生、中村さんとはバンコクのマヒドン大学で初対面。広大な大学の敷地内を先生に案内していただき、カフェ、食堂、コンビニと私たちもすっかり学生気分で作らせてもらいました。さて、これからがラオスです。バンコクから飛行機で約1時間、ラオス航空で夜の新ワットアイ空港に到着し、Dr ソムチット、Dr コンサップ夫妻が出迎えに来て下さいました。

翌日31日は、ビエンチャン市内の小学校で行われた「小学校教師対象セミナー」を見学しました。ここでは、Dr ソムチットとトレーニングを受けた講師が実践的な内容でセミナーを行いました。例えば、教師たちの前で「少ない水で効率よく手洗いをする方法」は？と質問し、教師たちが自分の考えた方法でやってみます。その後講師が実演して見せるというものです。そのような方法で進めていくと、教師たちも考えながら行うわけです。頭で考えて実際行えば生徒にも教えやすいでしょう。また、「手洗いの手順」を示した図を利用し、生徒へわかりやすく説明する方法も実演していました。エイズについては、各教師がエイズについての知識を得ているわけではないので、その感染や予防の基本となる初歩的なことをまず教師へ説明し、パネル、イラスト・ステッカー等の教材を活用し、絵を見ながら考え、学んでいくことができるよう工夫されていると感じました。これなら子供たちも恥ずかしがらずに学べるのではないかと思います。意外に感じたことは、セミナーに校長先生も参加されていることです。学校で実践していくためには、やはり校長先生の許可と理解が必要とのことなのだそうです。

夕刻、「SVA シャンティ国際ボランティア会」のビエンチャン事務所へも立ち寄りしました。ここは、本の読みかせや学校図書活動を支援している NGO で、同じ学校教育に関わる団体として、活動についてのお話をきいたり、事務所内の図書館を見学させていただきました。土曜日のためか子供たちがたくさん遊びに来ており、本を見ている子、道具を使って遊んでいる子もいました。

4月1日は国内線でラオスの古都ルアン・パバーンへ飛び、ワゴン車に乗り換えてサヤブリー県へ移動です。車での移動は、揺れも多く大変でしたが、車窓からの村の風景、焼き畑をしている山々、水田や陸稲、遠い道のりをひたすら歩いている子供たち、畑仕事から歩いて帰る女性の姿といった、まるでテレビ番組でしか見られないようなシーンが次々と目に飛び込んできて、飛行機の旅では味わえない体験をしました。山間部の人たちの日常を垣間見た気分でした。ラオスは人口が少ないといいますが、こうして人の

手の入っていない山々にも村人はずっと変わらず生活しているのだと妙に感心してしまいました。

サヤブリー県へ行くには、あの広大なメコン川を渡らなくてはなりません。私たちは、車ごと乗車できる、エンジン付きの大きな渡し舟でメコン川を渡りました。ここで見るメコン川の姿はビエンチャンやルアン・パバーンとは違い、山あいの陰しさが見られました。よく「母なる川メコン」とききますが、ここではそのメコンも「父なる川」という感じです。

4月2日はサヤブリー県教育局、小学校見学をしました。サヤブリー県では電気の使用時間が限られていて、夜間18時から23時までとなっているそうです。そのため、午前中に訪問した教育局、学校とも、曇り空のせいもあり、とても暗く感じられました。もちろん教室に電灯はないのです。あっても昼間は停電ですから電灯はつかないでしょう。みな、暗いのです。私の普段の生活と比べてみると、なんだか電気をつけなくてもよさそうな時間や場所はけっこうあるかな、という気がします。場所によっては防犯のために点けている時もあります。

訪問した街中の小学校では、児童数も多く、広い校庭があり、教室もさまざまなポスターや絵で飾られています。先生の教室作りに対する熱意が感じられました。一方、校舎がコンクリートであれ、わら葺であれ、子供たちにとっては大切な校舎です。そのなかで「トイレはどうなっているか」という点にも注目して皆で見学をしてきました。だいたいトイレは学校の校舎とは別棟で、一学年に対して1個室となっていたり、特に指定はなく、トイレの建物が校庭の隅のほうにあったりと、そんなふうに記憶しています。数が不足しているため、多くの子供たちは校庭の隅や裏庭（裏の空き地）で用を足しているそうです。

私の通った小学校では、校舎内にトイレがあり、校庭にも外用のトイレがあつて、「トイレが不足するってどういうことだろう？」と思ってしまいましたが、一部（割合はわかりませんが）の学校では、校舎を建てる時に、トイレの計画までされていない、ということがわかってきました。まずは校舎を建てるのが優先されるでしょうから、トイレはその次になってしまうわけです。

ちなみに、JADDOはこれからサヤブリーへも支援を始めるそうです。教師への人材育成とのこと。詳しいことはJADDOレターにも載るでしょう。会員の皆さま、また募金、バザー等でどうぞご協力をお願いいたします。

今回の視察を終えて、どこへ訪問しても快く迎えてくださったラオスの方々に感謝しています。また、いつも次の段取りを考えながら、皆にラオスのおもしろいエピソードを聞かせて下さった帖佐先生を始め、みんなのお母さん役だった中村さん、クールで笑顔のステキな永井先生、子供たちをいつも笑わせていた明るい友野先生と、同行者の皆さんに恵まれました。ありがとうございました。この体験を活かして、7月からのラオス滞在も頑張っていきたいと思います。

鹿児島県立武岡台高校の創立記念で講演（5月11日 講演者 帖佐理子）

—世界にはいろんな基準がある。一つの物差しで自分を決めつけないで。—

医者になって、すぐ鹿児島大学病院で研修医をしていました。拒食症の高校生を受け持ったことがありました。彼女は、全ての事を高校の偏差値で決めつけていました。人と話す時に相手の出身高校を聞いてからでないと、落ち着いて話ができないようでした。でも、同じ高校の人は、全員が同じ価値の人間でしょうか。高校の偏差値イコールその子の人生の点数ではない。と言うことは皆さんおわかりですね。でも、毎日が、偏差値の世界にいますと、それで全てを決めてしまいがちになるのでしょうか。

偏差値以外の基準で、いろんなとらえかたで人間を見てほしいと思い、このような演題にしました。外国のことなどと、合わせてお話をします。

（じゃっどの説明。ラオスのビデオをみてもらい、ラオスの学校の様子を説明。）

日本とは、違う学校の様子に驚かれたことでしょうか。これまでの日常を違う目で見ることができるのでは、ありませんか。・・・・・・・・

いくつかの国を見たり、住んだりしました。去年は、タイで大学院に行きました。同級生は16カ国から来ていました。いろんな国があると、考え方も常識も違ってきます。

赤ちゃんのうち頭の骨は、くっついていなくて隙間のところは脳内の圧力で膨らんだり、へこんだりします。ひどい脱水では、へこみます。南米では、赤ちゃんが下痢や嘔吐でひどい脱水になって、頭のとっぺんがへこんだら、お母さんたちがそこをちゅうちゅう吸えば良いと言われているそうです。えっつと笑ってしまうでしょう。でも、これがほんとに治療になるのです。頭のとっぺんに、吐き気を止めるツボがあり、ちゅうちゅう刺激で吐き気がとまり、赤ちゃんが水、おっぱいを飲めるようになるのです。いいつたえを受け入れてみると、点滴はいらない。病院が近くになくてもいのちがひとつ助かります。

ある国で、子供さんは何人ですか。と尋ねたら、3人。と言う返事があったので、「では、3人のうちで、女の子は何人ですか。」と聞くと、「ああー。そういえば、その3人の他に、女の子もいたなあ。」

イギリスで、ある男性が、女性に白いユリの花束をプレゼントしました。喜んでもらえると思ったのに、その女性は、かんかんに怒って帰って行ってしまいました。ヨーロッパでは、白いユリは、葬式のお花なのです。

ヴェトナムに行くと、年をすぐに聞かれます。日本でとにかく若ければいいような風があつて、私はいやなのですが、会ってすぐに年をきかれるのにも驚きました。ちゃんとわけがあるのです。ヴェトナムでは、相手と呼ぶのにいろいろの呼び方があります。年上が同じ年か年下かで、呼び方がちがうのです。年を聞かないと話を始められないのです。た。・・・・・・・・

これから、皆さんは進路を考えられるでしょう。世の中は偏差値だけで決めらるものではない。人生80年の、まだ6分の1しか生きていない。いつでも進路変更できる。私の昨年のクラスメートの平均年齢は40才だった。青年海外協力隊から帰国して、大学に入

りなおす人も多い。先を見てください。・・・・・・・・

以上のような話をしてきました。高校生に話をする機会を持ててうれしかったです。メールをくださいと、お願いしてきましたので、そのうちに感想をいただけるのではと、期待しているところです。

【事務局からのお知らせ】

感謝の気持ちとともに、ご支援ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきます。
(以下、敬称略)

■ 新規会員 (2000 年 12 月～2000 年 5 月)

川畑善照、内田耕也、中村幸子、米次朝子 (川内市)、中村睦子 (有明町)、小手川清隆 (鹿屋市)、今村賢治 (隼人町)、隈元郁子 (溝辺町)、有川清猛 (串木野市)、藤島美由紀 (愛知県)、濱田真寛 (大阪府)、土瀬戸邦洋 (東京都)

■ 平成 12 年度会費 (2000 年 12 月～2000 年 5 月)

古川孝子、上床久子、上床聖子、上野昌子、小牧三世子、下尾崎健一、諏訪元則子、森卓朗、田畑福男、若田吉朗、(川内市)、小城尚文、小城光子 (薩摩郡)、豊平美和子、福永正子、鹿島友義、豊平修、徳田リツ子 (鹿児島市)、中馬太郎 (日置郡)、長崎綾子 (東京都)、西睦夫、有吉和利 (福岡市)、高野真綾 (埼玉県)、中司裕子 (福岡県)、森田正人 (静岡県)、有江ミサ子 (長崎市)、藤井洋 (千葉県)、

■ 寄付 (机、いす募金)

川内青年会議所、古川孝子 (川内市)、竹林ひかる、蔵元陽子、福村りな、桑原愛子、秋丸千佳、宮田千恵美、帖佐伶美、塩屋光司、喜多康貴、福永雅樹、宮崎弥姫、丸田奈津実、西村航太、田中宏明、田中友惟、槐島夕季、川平紗恵子、今村杏南、今村望南、米倉恭平 (隼人町)、箕輪愛、新谷俊介、松原恭志朗、佐藤晶子 (国分市)

* 先日おはがきでお知らせ致しましたが、机、いすの完成が遅れております。完成いたしましたら、すぐに写真を添えてご報告いたします。

■ 寄付（現金）

小牧三世子、中村幸子、米次朝子、(株) ハートフル、川内青年会議所、帖佐理子（川内市）、小城尚文、小城光子（薩摩郡）、西睦夫（福岡市）、土瀬戸邦洋(東京都)

- * 武岡台高等学校での講演会謝礼金は、寄付金としてじゃっどの活動費にいただきました。

《会費納入のお願い》

じゃっど会員更新の時期になりました。平成 13 年度（平成 13 年 7 月 1 日～平成 14 年 6 月 30 日）も、よろしくご支援いただきますようお願いいたします。年会費はお一人 2000 円です。①～③の中から選びください。

- | |
|---|
| ① 会費自動引き落とし（郵便貯金口座）7 月中に手続きをお願いします。 |
| ② 郵便振替 口座番号 0 2 0 5 0 - 2 - 4 7 4 6
口座名称 J A D D O （用紙を同封してあります） |
| ③ 現金払い（若松記念病院となり寿泉堂内じゃっど事務局） |

8 月上旬(日時は未定)にじゃっど総会を予定しております。
後日はがきにてご連絡いたします。よろしくお願いいたします。

じゃっど事務局
電話； 0 9 9 6 - 2 7 - 0 1 9 3
ファックス； 0 9 9 6 - 2 7 - 0 1 9 3
e-mail asianoko@ml.satsuma.ne.jp
鹿児島県川内市神田町 1 1 - 2 0 若松記念病院内
会長 帖佐理子 事務担当 宮脇美智子